

楽のせ

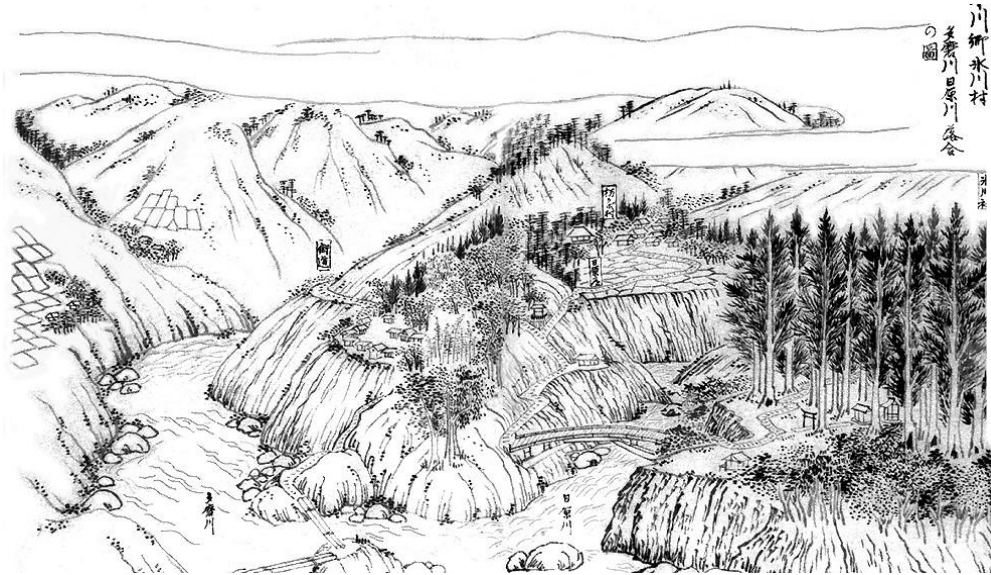


奥多摩

《第59号》

令和2年(2020)10月15日

(一社)奥多摩観光協会



多摩川日原川合合 「武蔵名勝図絵」より（1820年頃完成）



オガラバナ

亜高山帯雲取山荘付近で

見られるカエデ

絵 大澤新次

観光事業の推進を目指して

一般社団法人奥多摩観光協会の役員皆様をはじめ会員の皆様、名人・達人観光ガイドの会の皆様には、日頃より当町の観光振興の推進にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

奥多摩町は、昭和30年4月に誕生して以来「観光立町」を標榜し、地域活性化の核として観光事業に取り組んでおり、これまでも町の豊かな自然をはじめ地域の特性を活かした観光事業を展開し、年間を通して212万人もの多くのお客様が訪れております。

昨年は台風19号被害による日原街道の長期間にわたる通行止めがあり、町を代表する観光スポットの日原鍾乳洞も大きな被害を受け、通行止めが解除された後も営業できない状況でしたが、関係者皆様の懸命な努力により、7月9日に営業が再開されました。

また、本来であれば今年は東京オリンピック・パラリンピック大会が開催され、これを契機とした集客に大きな期待をしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け本大会が中止となり、さらには緊急事態宣言が発出され、休業要請や外出自粛要請がなされるなど、観光事業に大きな影響を受けております。このように大変なご苦勞の中で、観光事業者皆様には感染拡大防止にご協力をいただいておりますことに、厚く感謝を申し上げます。この新型コロナウイルス感染症との戦いは長期戦となりますので、「新しい日常」を実践し、感染対策を万全に観光のお客様をお迎えすることができるよう、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

最後に、近年は観光客のニーズも多様化し観光事業を取り巻く環境が大きく変化をしている中で、自然災害やウイルスによる脅威など、これまでに経験したことのない事態への対応が求められますが、町では観光協会をはじめとした観光関連事業者と協力して、先輩方がこれまで築き上げてきた観光事業を更に推進し発展させてまいりたい所存でございます。

奥多摩町長 師岡 伸公

奥多摩山歩きワンポイントアドバイス

～危険箇所の通過とロープワーク～

今年は諸般の事情から山歩きの開始が遅れ、普段のトレーニング不足と相まって秋の今頃やっと一緒に就いたかのようです。例年以上により安全な登山を心掛けたいものです。今号ではビレイ（安全確保）について取り上げてみましょう。

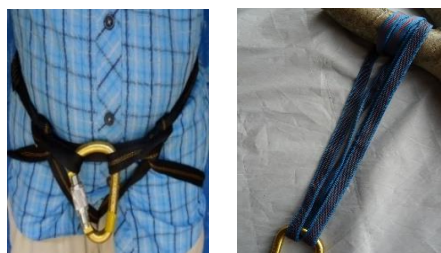
I. セルフビレイ（簡易ハーネス編）

まずは前号で紹介したテープスリングを使い、シットハーネス（腰の部分）を作って安定な樹木等にセットしてみましょう。



(模型で結び方を図示)

左図のように腰に結び、長すぎる場合は右図のように数回ねじる。



(シットハーネス) (樹木等にセット)

スリングで安定な樹木などに結ぶ。身体があおられやすいので要注意。

次に胴体部分についてもテープスリングを使って簡易的にチェストハーネス（胴体部分）を作って安定な樹木等にセットしてみましょう。



(1)

(2)



(3)

(4)

(模型で結び方を図示)

(1)スリングの片方を肩にかけ背中側を通し脇の下から引き出す。
 (2)次に前側で1回結ぶ。
 (3)胸の前で絞めて巻き付けた側の端を輪に通す。
 (4)結び目を絞め込みカラビナを通す。



(チェストハーネス)



(上下を連結)

上下のハーネスを連結すると体があおられにくくなり安定する。

また、胴体部分と腰の部分の両者を上のイラストの様にカラビナで連結すれば、体があおられることが少なくなります。

ii. セルフビレイ（ハーネス編）

上記 I で述べた簡易ハーネスによるセルフビレイはあくまでも簡易的で、事前にビレイの予想される場合には、専用のハーネスとカラビナやロープを準備し、立木など確実なビレイポイントに設置したいものです。



(専用のハーネス)

専用のハーネスは主要部分が幅広に作られており、スリングによる簡易ハーネスのように体に食い込まない。



(確実なビレイポイント)

スリングで安定な樹木などに固定。力が斜めにかかるにあおられやすい。

ところで前回紹介したロープのもやい結びは簡単に結べるが、人命にかかわる部分では次の二重8の字結び（エイトノット）にしたいものです。



(二重8の字結び)

ハーネスにロープを結びつける場合など、安全でより確実性の高い結び方。

いずれにしても経験者と共に、必要最小限のロープワークについて、目をつぶってでも結べるよう習熟し、二重遭難を絶対に引き起こさないようにしたいものです。

(富士 光男)

No. 12 大岳山 1,266.5m
(奥多摩三山)

奥多摩の山々に想いをよせて

6月8日、待ちに待った山行き、コロナによってここ3ヶ月ほどは、どこにも出ることができずにいた。久しぶりの登山、天気は上々で心も弾む。手作りの山用マスクまで作った。西多摩で育った私には、奥多摩の山は、近しい友のようなもの。今日のコースは「健脚コース」。不安はよぎるが、何とかなるさ、の甘えも入り交じる。

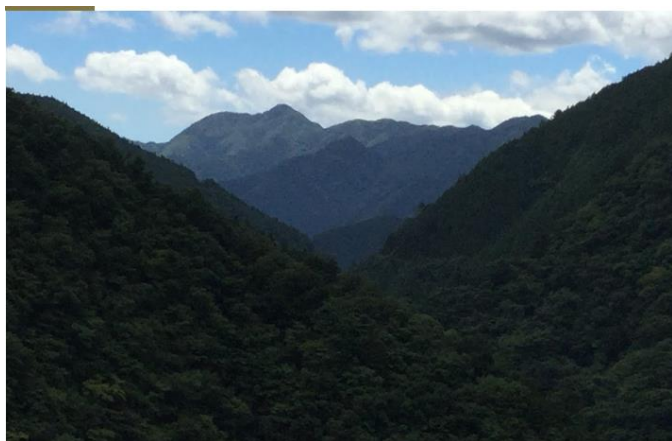
8時30分、登山開始。愛宕山から鋸山を経て大岳山を目指す。2時間たっても3時間たっても、昼食を食べてもまだ着かない!! 大岳山でこんなに遠かったかしらと不安になる。そうか! 私はいつも表側から登っていたのか!! 裏側から登るとこんなに果てしないのか! 自分の甘さを知る。やっと頂上に着いた時には、足がよれよれになっていた。

この日の参加は、知人に勧められ「奥多摩友の会」に入会し実現したもの。私も彼女のように奥多摩の山を知りたかったからだ。今はまだ2, 3の山しか知らない。だがきっと魅力的な山がいくつもあるにちがいない!!

ここ3ヶ月の自粛で、コロナ太りとなってしまう私。次の山行きの為、今日もウォーキングに励んでいる。つもりである。

何年か後にいっばしの奥多摩通を気取っている私を想像し、次の山行きを楽しみにしている。

会員 高橋 尚子



大岳山 (倉沢廃集落跡地より)

撮影 増澤 強

No. 13 鷹ノ巣山 1,736.6m
(ヤマツツジ)

鷹ノ巣山に参加して

6月18日(木)、朝5時半に家を出る。外出自粛で家でストレッチ等をしていましたが登山は3月から遠ざかっていた。

朝は晴れて鷹ノ巣山への登山で心浮たつ思いでした。奥多摩湖から水根沢林道に入り変化のある道を登って、これから登りやすい道になりますとガイドさんの話があったあたりから、フクラハギに違和感があり、立休憩の時“68”(芍薬甘草湯)を飲みこれで大丈夫とと思っていましたが今までに経験した事のない両足の“つり”で膝が曲がらなくなって、又“68”(芍薬甘草湯)を飲み、スプレー、マッサージも入念にさせていただいてどうにか歩ける様になりました。その前にガイドの方から何度も「調子が悪かったら言って下さい」と言っていたのに自分は大丈夫とと思っていたのがいけなかったと反省しています。そのため皆さんと別行動になりガイドの長谷川さん、斉藤さんがついてくださり、ザックまで持っていて、石尾根縦走路の鷹ノ巣避難小屋に到着。軽い昼食をとりました。少し雨が降ってきた中、浅間尾根を下山。林道を観光協会の車に乗せていただき帰路につきました。

今回の反省点は、今の自分の体力を過信せず、トレーニングすること。

長谷川さん、斉藤さんには気持ちを楽しませてくださる話で足の痛みも軽減されました。これからも山にしっかり向き合って登山を楽しんでいきたいと思います。

忘れられない鷹ノ巣山行でした。

ありがとうございました。

会員 木谷 嘉子

奥多摩樹木雑話

～ 木の葉寸想 ～

「秋きぬと目にはさやかに見えねども 風の音にぞ驚かねぬる」と古人が詠んだのは、私達にも通じる日本人的な感覚です。また「桐一葉 落ちて天下の秋を知る」の句に、古来からの日本人の感性を覚えます。このような場合、西洋の人だったら「今吹いた風は、どちらから吹いた風か」と問うであろうと、何かの本に、自然認識のしかたの違いとして比喩的にのっていました。

ところで、“はらり”と葉が散る瞬間はどのようにしてきまるのでしょうか。その時吹いた風（時には風もないのに）への葉柄の耐える力をあらかじめ推定し、落葉の瞬間を予測するのは、現代の科学でも難しいでしょう。落葉によって樹木は、葉にたまった老廃物をふるい落としリフレッシュしています。また落葉が若い芽に押し出されておこることからも、秋は植物のフォール（下降、Fall - 秋 - ）の季節であるばかりでなく、これからの生の胎動を秘めたライズ（上昇）の季節でもあるのです。この季節、木々の緑葉は色あせてきます。そのわけは、樹木は葉を落す前に葉の中の酵素で葉緑体を分解してできるミネラルを、茎へ回収しているからです。葉緑体はすがたを消していきますが、同時に葉に光合成で蓄積されていた糖から、酵素によって鮮やかな紅葉を出現させるアントシアニンがつくられていきます。

過日、奥多摩のとある森のみちで、真剣な表情で何かにカメラを向けている若い女性に出会いました。何を撮っておられるのかお尋ねしたら、その方は少々はにかみながら、「葉っぱです」と答えられました。花でも実でもない葉がもつ小さな自然のきらめきを、その方はするどい感性で捕えられていたのでしょうか。「神は細部に宿りたもう」。



(橋上 一彦)

奥多摩の野鳥

～ 小さな歌姫 ～

カワラヒワ：アトリ科、全長 15cm（スズメくらい）翼の一部が黄色く、尾も黄色



南西諸島を除いた全国で1年中普通に見られる鳥です。奥多摩でも河原や、木の上、電線などでキリキリ、コロコロ、ジュイーンと鈴を転がすような歌声がしたらそれはカワラヒワです。

多くの雑草が自生する河原や野原では、地面に落ちた草花の種などをついばんでいます。遠目に見るとスズメのようですが、その羽と尾にチラリと見える鮮やかな黄色が目印です。

留鳥として里山や丘陵で繁殖したカワラヒワと山地や北方で繁殖したカワラヒワが加わると雑木林、草地は賑やかになります。繁殖期以外は集団で木の枝や電線で群れています。

身近に見られる鳥ですが残念ながらスズメと同様に関心を持つ方が少ないと思います。しかし、ゆっくりと観察すると翼の一部分のあてやかな黄色が目立ちます。また、歌姫にふさわしい美しいキリキリ、コロコロとかわいい声のさえずりを耳にしながら癒されること間違いなしです。



(畑 幸夫)

絵 大澤 新次

とっておきの山里歩きガイド

「奥多摩湖畔の道」を歩く その2

山里歩き絵図 No.20「留浦」

東京都最西端の集落「留浦」。一番のお勧めは、浮橋歩き。さわやかな風と水と緑と青い空。



南岸から見た留浦集落



貴船神社の鳥居

武甲の境界線の村・留浦には、神仏混淆を象徴する貴船神社があります。社殿内に旧祭神の不動尊が二童子とともに安置されていますが、外から見ることはできません。ほかに、広徳寺跡には、墓地と三界萬霊塔以外にも立派な寒念佛供養塔があり、この地域の文化度を知ることが出来ます。

なお、雲取山や七ツ石山への登山口でおなじみの鴨沢は、都県境を流れる小袖川に架る鴨沢橋を渡ったところにあります。



都指定有形民俗文化財「小留浦の太子堂」

江戸時代の末に造られた娯楽施設としての農村舞台でありながら、仏壇付きで聖徳太子像や3体の仏像が安置されています。



太子堂下の国道に並ぶ石造物

太子堂や石仏群を見るだけでなく、ここまで来たらもうひと踏ん張り、急峻な山道を10分ほど登ってください。



山中にあるお堂と熟女像



姫の石観音

堂内にあるのは、自然石そのもの。子宝石、安産の神様として地元の女性から信仰の対象とされていました。

私の山里歩きガイドは、最終回です。こんどは、奥多摩の山里でお会いしましょう。

(岡崎 学)

「名人・達人観光ガイドの会」ガイド紹介

① 氏名 ② 現役時代の仕事または今現在の仕事
③ 出身地 ④ 現住所 ⑤ 趣味、特技 ⑥ ガイド
になったきっかけは？ ⑦ 今までガイドをして嬉
しかったこと、良かったと思ったこと ⑧ ガイドを
する時いつも心がけていること

① ^{たけだ かずよ}武田 和代 ② PC 事務 ③ 青梅市
④ 青梅市 ⑤ 森散歩、トレイルラン、ジョギング
⑥ 青梅丘陵を走り、自然との一体感を楽しんでいま
した。さらに、山歩きをしたいな…。そんな時、奥
多摩観光協会のガイド募集を見て応募しました。(応
募時 40 代) 自己紹介の時には「山は走っていたが、
歩いたことはありません」当初は初心者でした ⑦
お客様に喜ばれたこと。ガイド終了後に楽しかった
と言われた時 ⑧ 1 つは安全に案内、ケガ、事故の
ないように。それと奥多摩の自然を楽しんでいただ
けるように、気づきを大切にし、お伝えできたら。
逆にお客様から学ぶことが多いですね

① ^{はら あきこ}原 明子 ② 歯科助手 ③ 羽村市 ④ 羽村市
⑤ 百人一首、短歌、俳句、日本画 ⑥ 植物観察が好
きだったことと、20 歳ぐらいから奥多摩の山に登
っていて、四季折々の山を知ってもらいたいと思っ
た。⑦ ガイド仲間の人達からいろいろなことを教わ
り参加者に楽しんで山行をしてもらえたこと ⑧ 無
理なく、安全に安心して歩けるように心がける

9月1日、観光案内所に新事務局長着任

川久保 義彦 (かわくぼ よしひこ)

奥多摩町出身で以前奥多摩総合開発に勤務してい
ました。若い時には野球や登山サークルで山にも登
っていました。突然事務局長に指名され多少戸惑っ
ていますが、奥多摩に来て良かった、奥多摩の山に
登って良かったと一人でも多くの人に思っていただ
くためのお手伝いができる観光協会であり続けたい
と思います。よろしくお願ひします。

第6期生 新人ガイド研修中

名畑 乃里子、鈴木 典子、田村 浩子、伊藤 菜穂、
藤田 典夫、林 陽平 以上6名の方が新たにガイド
になるためにイベント等に参加しています。

秋から冬 奥多摩山歩き イベント案内 令和2年10月 から令和3年2月

- No. 25 10月 29日 (木) 御前山 (奥多摩三山)
No. 26 11月 10日 (火) 天目山 (三ツドッケ)
No. 27 11月 19日 (木) 倉戸山 (紅葉)
No. 28 11月 25日 (水) 砥山 (山のふるさと村)
No. 29 11月 28日 (土) 紅葉真っ盛りのむかし道
No. 30 12月 12日 (土) 大塚山、日の出山、高峰山
No. 31 1月 16日 (土) 高水三山
No. 32 2月 6日 (土) 山ふるで野鳥観察

◆◆「来させえ・奥多摩写真展」開催◆◆

期日 2020年10月27日(火)~10月31日(土)

会場 鳩ノ巣駅前 喫茶店・山鳩

◆◆ 0428-85-2158 ◆◆

これはサルオガセか？

夏の暑い日海沢
林道を三滝目指
して歩いて行く
と沢沿いの杉の
木などの木の枝
に、とろろ昆布
のような糸状の
ものがぶら下が
っています。これは何でしょう？

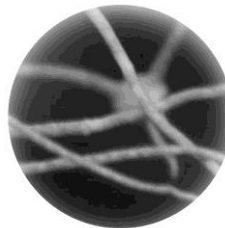
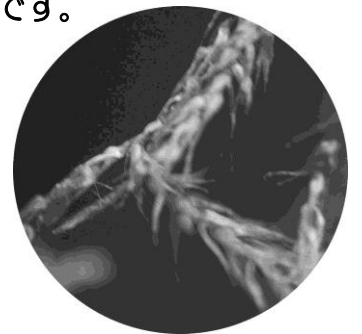


近くに寄ってルーペで見ました。
すると、ただの糸に見えていたものが、実は葉が
ついていました。

これはキヨスミイトゴケです。

サルオガセは霧藻とも
いわれ、地衣類。

それに対してキヨスミ
イトゴケはハイヒモゴケ
科イトゴケ属の
苔(蘚類)です。



左の写真はサルオガセ
(山梨県大弛峠で撮影)

(小峰 一郎)

次号発行予定：令和3年1月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川 210
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会